

2. 交流内容に関する事項

(1) 交流内容について(できるだけ具体的にご記入ください)

① 交流名 (事業名)	京都・ボストン姉妹都市提携60周年記念事業
② 交流の内容	<p>本年、京都市とボストン市は姉妹都市提携から60周年の大きな節目を迎えた。60年は人間の年齢で言えば「還暦(かんれき)」にあたる年であり、その言葉には長寿を祝うとともに「第二の人生に生まれ変わる」という意味がある。</p> <p>この節目を契機に、両市の更なる友好関係の強化を目指して、姉妹都市間・日米間での『人材交流』を大きなテーマに掲げ、両市において1年間を通じて</p> <p>「(1) 文化交流等を通じたグローバル人材の育成」と 「(2) ライフサイエンスをはじめとする経済交流」</p> <p>を柱とした記念事業を展開した。記念事業を通じて、これまでの両市の固い絆を改めて振り返り、文化・教育面での交流を一層深めるとともに、現代にあわせた形で新たな分野での経済交流(ライフサイエンス分野)を積極的に進めた。</p>
③ 背景・経緯	<p>京都市とボストン市はともに歴史あるまち、学生のまちとして多くの類似点を持ち、文化・教育など幅広い分野において長年にわたり交流を重ねてきた。文化面では、今から40年前ボストン・チルドレンズ・ミュージアム(=ボストン子ども博物館)に京都市が寄贈した本物の京町家が移築・展示されており、日常的に日本文化を体験できる機会を提供している。教育面では、両市の青少年使節団による相互派遣を行った後、近年では高校生や小学生達によるボストン訪問・現地交流が毎年行われている。また、スポーツ面でもメジャーリーグの人気球団ボストン・レッドソックスやスポンサー支援のもと「日米青少年野球交流事業」を実施してきている。</p>
④ 交流の成果	<p>ボストン子ども博物館がこの周年記念のために特別にデザインした記念ロゴマークを活用して、多数の市民・関係団体等が自ら積極的に事業を展開した(全部で20件以上を実施)。代表的な交流成果については以下のとおり。</p> <p>「(1)文化交流等を通じたグローバル人材の育成」に係る成果</p> <p>①「青い目の人形米国里帰りプロジェクト@ボストン子ども博物館」による多文化理解の進展</p> <p>京都市立小学校に大切に保管されている青い目の人形メリーを米国に里帰りさせた際、同博物館がアフリカ系アメリカ人の人形を寄贈。様々な人種で構成される現代のアメリカ社会の多様性を知る契機となり、この経過が帰国後の教育現場へと生かされている。</p> <p>②「工芸作家の方々のグループによるワークショップ及び展覧会」</p> <p>工芸作家の方々のグループの作家によるボストンの子ども達を対象としたワークショップを開催した(4月)。また、巨匠から新鋭までの作品が出品された展覧会が開催された(9月～11月)。これらは現地でも大きな話題となり、新たな京都ファンの開拓に繋がった。</p> <p>「(2)ライフサイエンスをはじめとする経済交流」に係る成果</p> <p>①ボストン市主催のライフサイエンスフォーラム(4月)や、</p> <p>②京都市/経済産業省/ジェトロ主催による「対日投資カンファレンス」の開催(ビジネスマッチング)(7月)等の積極的な交流が実現し、京都市、(公財)京都高度技術研究所と米国のスタートアップ支援企業との協力覚書提携が実現した。</p> <p>今後一層、両市においてライフサイエンス分野の交流が活発化していくことが見込まれる。</p>
⑤ 今後の展望	<p>時代にあわせたテーマ設定により、幅広い分野での人材育成と、各分野での取組を大きく前進させることができた。</p> <p>この交流の活性化を、将来のボストンとの10年後の記念事業に向けて活かしていくと同時に、そのプロセスを可能な限り活用し、グローバル人材の積極的な参加のもと、本市が提携する他の姉妹都市交流(ボストン含む全9都市)にも繋げていくことを目指す。</p>
⑥ その他	<p>姉妹都市交流の主役である市民間での交流に加えて、ボストン市と京都市は環境分野で政策面で連携し、ともに持続可能な都市づくりを進めていくことを確認した。ボストン市は「ごみゼロのまち」を目指しており、市民ぐるみで「Do You Kyoto?(=環境に良いことしていますか?)」を進めている京都市の取組に高い関心があった。後日、ボストン市代表団が京都を訪問し、環境学習施設を併設する最新型のゴミ焼却施設を訪問する等、新たな連携が進められている。</p>

(2) アピールポイント

下記①～⑥の【審査のポイント】に基づき審査いたします。各視点に沿って、事業の特徴等をご記入ください。

その他、強調すべき点については、「⑦その他」にご記入ください。

項目	根拠・理由
① 先進性	【時代にあわせたテーマ設定により交流分野が拡大】 ボストンとの姉妹都市交流においては、テーマ性を持たせることによって、文化・教育分野等での交流を一層発展させるとともに、経済分野(ライフサイエンス)での交流が進み、その分野を着実に広げることができた。同時に、政策分野での都市間連携を深めることも重要であり、環境分野での連携を両市長が確認した。後日、ボストン市代表団が京都を訪問し、具体的な意見交換や環境施設の視察を行った。
② 独自性	【両市独自のコンテンツを最大限に生かす工夫】 両市ともに歴史あるまちとして、文化、教育、スポーツ、経済など様々な分野において独自のコンテンツを有している。それらの資源を最大限に生かし、都市の魅力を発信することで、幅広い分野においてあらゆる層の市民に参加を促すことができた。(例:文化…京町家、工芸、マンガ、食文化等/教育…日米友情人形、ダイバーシティ(人種の多様性)/スポーツ…野球球団の拠点/経済…MIT、京都大学等の研究機関と先端科学企業)
③ 継続性	【幅広い分野での人材育成】 交流内容に新鮮さを保ちながら、幅広い分野において「人材育成」に繋がる人的交流を積極的に進めた。姉妹都市交流を通じて得られたポジティブな経験が企画者にとどまらず、その周囲の方々に広く共有され、今後の継続的な活動が見込まれる(例:ライフサイエンス分野での交流、日米友情人形を通じた交流 等)。
④ 活発性	【全20件以上の事業を年間を通して実施(30以上の団体・企業・学校が参加)】 記念事業では、一年間を通じて多くの市民や団体が自ら多数の事業を活発に展開。記念ロゴマークには20件以上の申請があり、30以上の団体・企業・学校が主体的に参加して頂いた。行政においても担当部署の枠組みを超えた展開を積極的に進めることができた。
⑤ 協働性・連携性	【行政×市民×関係団体での多様な協働と連携】 一年間を通じて様々な企画が自主的に展開され、行政・市民・関係団体が相互に協力・連携し合うことができた(事例:ボストン日本祭り)。結果、本市が負担する予算額が少ない中でも、両市においてバラエティーに富んだ事業を展開することに成功した。
⑥ 効果 (相手方と与えた影響や効果を含む)	【記念事業を契機として各分野で取組が前進】 両市が歩んできた貴重な交流をしっかりと振り返るとともに、文化交流や経済交流を通じて「多文化理解」や「新産業の創出」に向けた取組を大きく前進させることができた。他にも市民各々の取組が、都市の魅力を高めるブランド力向上にも繋がっている。姉妹都市交流から得られた成果が、今後の両市の更なる発展へと繋がっていくことが期待できる。
⑦ その他 (500文字以内)	【数々の姉妹都市がある中でのノウハウを活かした活発な交流】 京都市には9つの姉妹都市があり、その数は政令市の中でもトップクラスである。毎年、それぞれの都市との10周年記念の節目が巡ってくる中で、特定の都市だけに毎年予算をかけた交流を深めることが難しいという課題を抱えている。そうした課題がある中で、その節目を姉妹都市間交流を活性化させる大きな機会と捉え、相手方の都市の特徴を踏まえた企画を多くの市民の協力のもとで展開している。また、数々の姉妹都市との交流のノウハウを活かし、環境分野での政策連携や、都市の魅力を向上させるブランド力強化(企業の協力による衣服デザイン等)にも取り組んでいる(ともに前年のパリ60周年をモデルケースとして実施)。(317文字)

【審査のポイント】

①先進性	・他団体に広がる先例や模範となりうるものとなっているか。
②独自性	・創意工夫に富み、他団体では見られないような独自の発想や着眼点があるか。
③継続性	・活動の継続、効果や実績の定着が期待できるか。 ・(実績は少なくとも)今後の活動の継続性・発展性が大いに期待できるか。
④活発性	・活動内容が質量ともに充実しているか。 ・多様かつ多数の者が活動に参加又は関与しているか。
⑤協働性・連携性	・行政と住民等、多様な主体間での協働、連携がなされているか。 ・協働、連携により、事業の効率的な実施や成果の向上が図られているか。
⑥効果	・この取組により、地域の国際化、地域経済の活性化、地域の知名度やイメージの向上等につながっているか。